

授業科目	文学				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	CH10402J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-1			
担当教員	戸田 由美							
授業概要	<p>日頃、当たり前だと思っていることも、見方を変えれば、意外な重要な意義があったりします。あなた方の気が付かなかった事柄など、面白い話をしながら、文学的考察にはいります。</p> <p>文学とは何か、この学びは、文学作品はもとより、生きている現象のすべてを対象とし、分析し、自分の考えを自分の言葉で表現できるように世界に向けて、発信するべく、習得する、大切な授業です。</p> <p>したがって文学とは、「あなたがたにとってたいせつな実学」であることを学びます。</p> <p>そのために、あらゆる視点から、テーマを定めて、幾多もの方法で考察します。</p> <p>目からウロコの大きな発見があることでしょう。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1、多角的に視野が拡がり、柔軟な発想ができる。</p> <p>2、読解力が向上し、文学の基礎的知識を習得できる。</p> <p>3、文学の背景にある日本文化、および西欧文化の理解を深めることができる。</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	0	20	30	100	
知識・理解 (DP1-1)			50		20	30	100	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
習得した文学的センスを生かし、豊かな表現力と柔軟な発想でもって、様々な事柄を相手に魅力的に伝える能力を兼ね備えていること。				こころとことばの深い関係性について習得し、正しい日本語を用いて美しく表現できる能力を併せもっていること。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	絵本各論① 今、なぜ文学なのか、その意義とは？ (世界の絵本の歴史・日本の絵本の歴史・絵本賞)			講義		復習すること		30

	児童文学賞)			
2	「からだことば」ってなんですか。 そのおもしろさを解説します。	講義	あらかじめ自身の考えをまとめておくこと	20
3	「文学的エステの世界」について エステサロンではありません。 日本文化をあらわすキーワードはなにか。	講義	復習すること	20
4	ころとことば (1) 日本で一番古い愛の表現とは？	講義	予習をしておくこと	20
5	ころとことば (2) 太陽の色は何色か？国際的視点で考察する。	講義	予習をしておくこと	30
6	ころとことば(3) 明治期の隠された文献の真実；戦争を語る	講義	復習をすること	20
7	嘘つきのパラドックス 4千年解けなかった事実と表現にせまる	講義	復習をすること	20
8	文学作品における愛情表現 源氏物語、光源氏の愛し方、愛され方	講義	あらかじめ考えてみよう	20
9	ベストセラー小説の意義について (社会学的考察をするとどうなるか)	講義	自分なりの答えを導き出してみよう	20
10	映画を観る、(作品名は講義中に解説)	講義	復習すること	30
11	絵本の世界を広げる技術 絵本を提案する技術 絵本に係る情報収集と整理(外部講師)	講義	復習すること	20
12	大人の心を豊かにする本 絵本が大人に与える喜び、障害をテーマにした文学 について	講義	復習すること	30
13	絵本を紹介する技術 障がい児や病児にとっての絵本の役割と適切な 提示 (外部講師)	講義	復習すること	20
14	絵本が生まれる現場② 絵本編集の仕事の内容・役割 (外部講師)	講義	復習すること	30
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				

24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	新聞は欠かさず読むこと。活字に親しむことがたいせつです。			
テキスト	使用しません。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	講義中、必要に応じてプリントを配布いたします。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	従来の国語学習とは異なる日本文化、あるいは日本語への新しいアプローチとなりますから、講義中理解できなかったところは、必ず質問してください。			
達成度評価に関するコメント	最後に提出するレポート、その他、講義中の態度等の総合点によって成績をつけますので、まずは、無遅刻、無欠席であることが要となります。 「その他」では、授業への積極的な受講態度を評価します。			

